

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成29年												平成30年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 ~5日	8月 ~12日	8月 ~19日	8月 ~26日	9月 ~2日	9月 ~9日	
カンピロバクター	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	109	84	37	39	48	105	75	71	122	33	21	20	24	27	31	
病原性大腸菌	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	73	110	66	51	44	98	78	83	111	24	22	14	20	19 (21)	18	
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	
サルモネラ	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	16	3	3	1	1	5	3	20	12	3	7	1	11	3	4	
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	9	12	14	11	7	24	10	10	16	10	8	3	5	1	4	
黄色ブドウ球菌 MRSA	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	15	16	12	11	13	12	12	17	14	3	1	5	2	4	6	
腸炎ヒブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
その他	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	3	1	0	7	5	3	1	2	4	2	0	0	3	1	0	
ロタウイルス	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	2	11	18	50	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ノロウイルス	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	7	21	13	13	17	4	4	2	3	0	0	0	0	0	0	

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

広島県感染症発生動向週報

平成30年第36週(9月3日~9月9日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	6	結核	6	2		1	1		1	1	
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2					2			
四類	4	日本紅斑熱	2			2					
		レジオネラ症	2		1			1			
五類全数	13	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1							1	
		梅毒	1						1		
		破傷風	1								1
		百日咳	7						1		2
		風しん	3						2	1	

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第36週 9/3~9/9)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. 風しん

2件の報告があり、今年の累計は7件となりました。現在、首都圏を中心に患者の報告数が急増しているため、注意が必要です。

風しんはワクチン接種で予防可能な感染症です。妊婦を守る観点から、過去に風しんにかかったことがある、予防接種を受けたことがある又は風しんに対する抗体が陽性であると確認できている方以外の方は、予防接種を受けましょう。

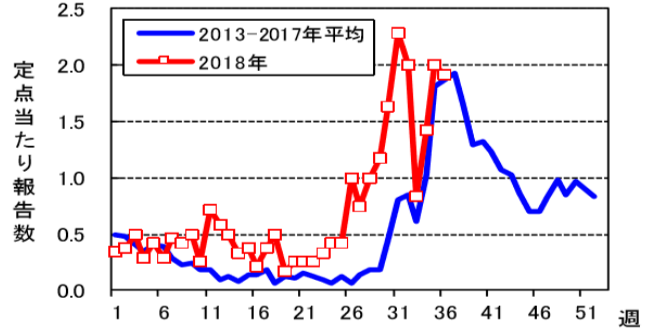
2. 腸管出血性大腸菌感染症

2件(O157)の報告があり、今年の累計は6件となりました。手洗いの励行、食品の十分な加熱など感染予防対策を心がけましょう。

3. RSウイルス感染症

定点当たり1.92人と、多い状況が続いています。年齢別では、1歳以下の報告数が全体の76.5%を占めています。

RSウイルス感染症の流行状況



【参考】厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.08			小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.62		
	咽頭結膜熱	9	0.38	0.47				RSウイルス感染症	46	1.92	1.87		→
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	2.25	1.41	↔		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-		
	感染性胃腸炎	99	4.13	3.50	↔			流行性角結膜炎	10	1.25	0.85		↘
	水痘	7	0.29	0.64			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	39	1.63	1.87	↔			無菌性髄膜炎	-	-	0.11		
	伝染性紅斑	-	-	0.13				マイコプラズマ肺炎	-	-	0.17		
	突発性発しん	11	0.46	0.51				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	20	0.83	0.64	↔			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.14			

急増減 ↑ ↑ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↘ ↗ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↔ ↔ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ↔ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

(※) インフルエンザのシーズンは、第36週~翌年第35週です。第36週より、2018/19シーズンとなります。

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	6	女性(20歳代)・O157、男性(40歳代)・O157
4	レジオネラ症	1	27	男性(60歳代)
5	百日咳	1	39	男性(10歳未満)
5	風しん	2	7	男性(40歳代)、男性(40歳代)・市外

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
ヘルパンギーナ	発熱(40.0) 意識障害 熱性痙攣	2	男	2018/07/03	咽頭拭い液 糞便	コクサッキーウイルスA2型
ヘルパンギーナ	発熱(38.5) 咽頭炎	1	女	2018/07/30	咽頭拭い液	RSウイルス
流行性耳下腺炎	発熱(38.4) 耳下腺腫脹 嘔吐 頭痛 項部強直	5	男	2018/05/25	髄液	ムンプスウイルス
無菌性髄膜炎	発熱(39.0) 水疱 口内炎	5	男	2018/07/18	咽頭拭い液	エコーウイルス11型
その他の消化器疾患	発熱(39.0) 腹痛	2	男	2018/07/05	糞便	エコーウイルス11型 アデノウイルス1型
その他の消化器疾患	発熱(37.8) 嘔吐 下痢 腹痛	1	男	2018/07/16	糞便	エコーウイルス11型
その他の疾患	腹痛	2	男	2018/07/21	糞便	エコーウイルス11型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載